

# みんなが選んだ!

f 市公式フェイスブックページ

# 豊中のイイところ!

写真コンテスト受賞作品発表



市公式フェイスブックページや広報とよなかを活用し、市民の皆さんから豊中の魅力的な風景などの写真を募集・公表する「みんなが選んだ! 豊中のイイところ!」写真コンテスト。115点の応募作品からフェイスブック利用者による1次審査を昨年11月に、12月に各賞の審査を経て受賞作品が決定しました。審査員で、市在住の写真家・後藤鐵郎さん(左ページ参照)のコメントとともに、受賞作品を紹介します。受賞された皆さん、おめでとうございます。

なお、1次審査で選ばれた他の作品と、全ての応募作品は広報とよなか3月号で紹介します。

豊中市フェイスブックページ賞・後藤鐵郎賞

「ボクのヒーロー」小野 和美さん(岡上の町)



「救命力世界一宣言の消防隊員の皆さん。毎朝の朝礼も緊張感があります」と話す小野和美さん。3歳の湊くんは消防局の前を一緒に通るたび、朝礼に興味深く見えています。そして、いつの間にか朝礼の手順を覚えてしまい、消防隊員とともに敬礼できるように。「消防隊員の皆さんも息子のことを覚えてくれているようで、手を振ってくれたりおはようとおいさつしてくれたり、とても優しく接してくれています。息子にとっても、私たちにとってもまちを守ってくれるヒーローです」と話してくれました。



後藤's Check!

この場所は私もよく通り、消防隊員の皆さんが朝礼しているのも見掛けますが、いい構図ですね。手前にグッと子どもを配し隊員との遠近感を強調した、写真ならではの表現です。子どもも隊員も敬礼しているいいタイミングを捉えています。ちょっとユニークな視点で押さえた豊中のいいところだと思います。

後藤鐵郎(写真家)

兵庫県川西市生まれ。豊中市立第二中学校、豊中高校、日本大学芸術学部写真学科卒業。昭和51年(1976)写真制作会社に入社。

平成26年(2014)イゾラ設立。ヨーロッパ数か国、中近東、カナダ、オーストラリア、アメリカ、南太平洋など世界各地を撮影取材。『年鑑日本の広告写真』に入選多数。著書に『いまでも天国にいちばん近い島』(PHP研究所)、『Vita Italiana』(リプロアルテ)。日本広告写真家協会、日本写真芸術学会の各会員。



## 各賞の説明

- \* 豊中市フェイスブックページ賞  
同ページのアルバム機能で作品を公開し、最もいいね数が多かった作品
- \* 広報モニター賞  
市広報モニターが選んだ作品
- \* 後藤鐵郎賞  
市在住の写真家・後藤鐵郎さんが選んだ作品
- \* 豊中市長賞  
浅利敬一郎市長が選んだ作品

広報モニター賞

「千里の原風景」東 里恵さん(新千里西町)



「もともとは広大な竹やぶだった千里。千里中央駅東側にある、都会の真ん中に残る原風景を撮影しました」と話す東里恵さん。竹林といえば、京都・嵐山が有名ですが、それに負けないほどの千里の竹林を知ってほしいとの思いからコンテストに応募されたそうです。「都会に残る竹林は、疲れた体と心を癒してくれるオアシスです。まっすぐに伸びた竹からはなんだか元気がもらえる気がして、大好きな場所です」と話してくれました。



後藤's Check!

光のあたり方がよく計算された写真です。竹の緑と手前の樹木の深い緑と地面の茶色が構図の中でうまく配置され、1枚の日本画のようなしっとりとした作品に仕上がっています。豊中にはまだまだこんな風景があるのですね。

豊中市長賞

「服部緑地の紅葉」

辻 直之さん(曽根南町)

「あまりにも見事な紅葉に思わず撮影しました」と話す辻直之さん。散歩やテニスでよく服部緑地を利用しているそうですが、これは偶然見つけた風景とか。「服部緑地には子どものころから行っていたので、思い出がたくさんあります。豊島公園もよく利用しますが、テニスコートや野球場がコンパクトに収まったいい公園。自宅に近いところに趣の異なる公園があって、満足しています」と話してくれました。



後藤's Check!

少し傾いた太陽の光を生かすことにより立体感のある写真になっています。その光が木々により一層赤みを与え、秋の空気感を感じます。人物の配置とその長い影がまた、写真にいい効果を出しています。



市公式フェイスブックページでは、写真コンテストの応募作品を全て公開しています。同ページへはこちらから

